

1 単元名 本質をとらえよう 考える価値内容 自己/他者

2 単元について

6年生でおそらく最後の「てつがく」である。これまでの経験をもとに、本質観取の対話に挑戦したい。本質観取とは、「自分がこうだと確信している(ex. 目の前にリンゴの像が見えるからリンゴがある)」というのではなく、だれにとってもそうだといえる確信(ex. 誰がみても目の前にリンゴがあると確信せざるをえない)の構造を取り出して記述する」ことをいう。西(2016)は、その意義を<他者了解・自己了解・人間の生一般の了解を同時に進めていく作業>となっていくことに見出している。本質観取は、例えば「自由とはこういうものだ」という理想や信念はいったん脇に置いて、対話の参加者全員にとっての「自由」の確信としての共通項を取り出すことによるものである。つまり、意見や信念の対立ではなく、建設的な対話が大切になる。私たちの対話もそのような質で展開され、私たちがなりの問いの答えを見つけていきたいと考えている。

本学級では、2学期の後半に、「正義とは何か」という問いについて、じっくりと対話を積み重ねてきた。最終的に、「正義とは◇◇」という言い換えについて、全員が納得する共通理解を見出そうと取り組んできたが、はっきりとした答えを見出すことができなかった。暗黙には共通理解ができたのではという実感をもっているが、最後にまとまらなかったのは、対話の過程に個人の感じ方の違いから生じた信念対立のようなものが見え隠れしたことが原因でないかと考えられる。

よって、まずはそのプロセスを振り返り、どこで迷走したのか、手続きや対話の仕方はどうだったのか、何が原因で暗黙の理解に留まったのかを、全員で振り返り、それに納得したうえで新たな問いに向かって本質観取を試みていく必要があるだろう。問いを立て、本質をとらえるまでのプロセスを学びとして積み上げていけるように、一つひとつ丁寧な振り返りながら対話することを大切にしたい。

また、本学級の子どもたちは、少人数での対話を好む傾向にある。本単元では、少人数での対話を中心として、より一人ひとりの考えが行き交う空間づくりを目指したい。

3 学習指導計画(10時間目/全15時間)

- 前回の対話について、その手続きがどうであったかを振り返る。
- 話し合いたい、考えてみたい問いを出し合い、皆で話すテーマを決める。
- テーマに関する問いのことばを吟味する。互いの問題意識を出し合い、話し合う問いを決定する。
- 問いに関する互いの経験を出し合う。共通点を探る。
- 「〇〇とは△△である」という言い換えを試みる。(類似概念と比較する、特徴を挙げる、根拠を問う)
- 「〇〇とは△△である」の共通理解できるところとそうでないところを区別し、自分自身の現時点での考えをまとめる。

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

〇〇の本質を見出そうと、対話を通じて「〇〇とは△△である」と言い換える。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前回の話し合いを振り返る。他者の振り返りを読んで、自分自身の考えを再構成する。	・ 全員の振り返りを文字に起こし、手持ちの資料として活用できるようにする。
2 1を踏まえて少人数で話し合い、自分たちの暫定の考えを構成する。	・ これまでの話を振り返り、話題を整理してから話すようにする。少人数で話したことをまとめて代表サークルに持ち込めるようにする。
3 代表者でサークルをつくり、聴きあい、「〇〇とは△△である」と言い換えてみる。	・ 代表サークルは途中でメンバーを交代することもある。時折周囲に声をかけるようにする。
4 今日の話合いを振り返る。	

引用・参考文献

西研(2016)「本質観取とエピソード記述」本質学研究第2号 pp.62-76